

令和6年度研究発表会のご案内

POINT

「学びをたのしみ自律共創する子どもの姿」について
本時の授業を基に語り合しましょう！

ポイント 育ちを支える教師の役割の具体を提案します！

- 子どもたちが自分の学びの舵取りをしながら、学びをたのしむために、どのように教師が関わっていけばよいのか授業の具体で提案します。
- 教師が子どもの今を見取り、単元をリデザインしていく過程を、本校ホームページの教科ブログや、申込者限定の指導案公開ページでお知らせします。
- 午後の全体会では、講師の岡田先生と本校職員とのパネルディスカッションや講演を通して、教師の役割をさらに明らかにしていきます。

研究主題 **学びをたのしみ自律共創する子ども**
～育ちを支える「教師の役割」を再考する～

日 時 令和7年2月14日（金）8：15～15：50

8:15	9:00	9:45	10:00	10:45	11:00	12:30	13:30	15:50
受付	公開授業Ⅰ	移動	公開授業Ⅱ	移動	各教科等 分科会	昼食	全体会	閉会

会 場 熊本大学教育学部附属小学校
内 容 対面による各教科等の授業公開・分科会・全体会

全体提案

パネルディスカッション「育ちを支える『教師の役割』とは」

講演 「自律的に学ぶ子どもと 学びを育てる教師」

お申し込みはこちらから



事前申込 2月7日（金）まで

これ以降は当日参加扱いとなります。事前申込にご協力お願いいたします。

講 師

香川大学教育学部 准教授 岡田 涼 先生

著書

- 『やる気をひきだす教師：学習動機づけの心理学』（金子書房）
- 『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』（北大路書房）
- 『教師として考えつづけるための教育心理学』（ナカニシヤ出版）
- 『子どもと大人の主体的・自律的な学びを支える実践』（福村出版）



附属小学校ホームページのご紹介

新しいコンテンツ
続々登場!!

● 実践・研究ブログ

臨場感あふれる各教科の取り組みを随時更新します。

● 教科等別指導案アーカイブ

校内で行われた最新の授業実践が掲載されます。



©2010熊本県くまモン

<https://elem.educ.kumamoto-u.ac.jp> 熊大附属小 検索

附属小学校SNS

本校の実践を SNS で発信しています。共に熊本の教育を充実・発展させていきませんか？

熊大附小公式 Facebook

熊大附小 LINE 公式アカウント



熊本大学教育学部附属小学校 研究だより vol.67

発行日 令和7年1月8日

編集・発行 熊本大学教育学部附属小学校 〒860-0081 熊本市中央区京町本丁 5-12 TEL 096 (356) 2492 FAX 096 (356) 2499

研究主題

学びをたのしみ自律共創する子ども
～育ちを支える「教師の役割」を再考する～



詳しくは裏面をご覧ください

研究発表会 締め切り間近!!

ご挨拶

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

研究主題「学びをたのしみ自律共創する子ども」の下、本年度は特に、子どもの学びを支える教師の役割について議論を重ねてまいりました。本年度の研究発表会では、公開授業や分科会等において、その成果をできるだけ分かりやすく提案できれば幸いです。

適時適切な教師の指示や問いかけの重要性について、異を唱える人はいないと思います。しかし、子どもが主体となって学びをたのしむための教師の関わり方については、十分な議論が必要ではないでしょうか。

研究発表会では、これまでの本校の取組について提案いたしますが、ぜひそれぞれの学校での取組と重ねて考えていただきたいと思います。また、子どもの学びを支える教師の役割について皆様の理解が深まり、明日からの授業実践につながることを期待しています。

なお、昨年度に引き続き、香川大学教育学部准教授の岡田涼先生に講師をお願いしています。岡田先生には、講演に加えて、本校職員とのパネルディスカッションにも参加していただく予定です。

研究発表会当日には、多くの関係者の皆様にお会いできることをたのしみにしています。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 塩村 勝典

「教師の役割」を再考する

研究部長 是住 直人



「学びをたのしみ自律共創する子ども」を研究主題に掲げ4年目となりました。今年度は「育ちを支える『教師の役割』を再考する」をサブテーマとして、私たち教師ができることは何かを探ってきました。

例えば、今年度実践した国語科の指導案には「思いや気持ちを考えることに目が向いていない場合には、実際に劇をやってみてどんな気持ちになったかを問い返し、思いや気持ちに目が向くようにしていく。」という子どもが思考していることを見取った上での手立てがありました。また、外国語活動では「英語表現を忘れてしまった子どもたちには、大きさ、色、形の表現を書き留めた掲示物を見ながら既習事項を想起できるようにする」という子どもの理解の状況に応じた手立てがありました。これらの「～な場合には」「～な子どもたちには」などの手立ては、他の教科の指導案にも見られました。これは、活動する子どもの姿を具体的に想像し、刻々と変化する「今」に応じて、どんな支援ができるのかを考え抜こうとする本校職員の志の現れだと思っています。

2月14日（金）の研究発表会では、今年度の研究の成果を14本の授業を基に提案いたします。そして、子どもたちが「対象世界に没頭するたのしさ」「仲間と共に創り出すたのしさ」「自分なりの価値や意味を発見するたのしさ」を見だし、自律共創する学びの姿をご覧くださいければと考えております。ご参会お待ちしております。



社会科 第5学年

「森林保護プロジェクト～未来の森林のためにわたしたちができること～」

森林課題における、「自分事」として学ぶ子どもの姿とは



単元末に「できること」を考えるだけで、本当に「自分事」になり得るのでしょうか。本実践では、単元を通して自分たちにできることを模索していく中で、全国の森林、そして林業の課題や在り方について多面的・多角的に追究していく授業を提案します。（白石 和真）

理 科 第5学年

「どうやって取り出す?～『溶ける』の研究～」

重さに着目することで、溶解を明らかにする授業



物が水に溶けることを、「なくなった」と捉えてしまう子どもは少なくありません。そこで、混合水溶液から溶質を取り出す活動において、重さに着目しモデル図を使って考える中で、溶けるとはどういうことかを明らかにする授業を提案します。（赤星 愛）

道徳科 第6学年

「卒業後も続く友情とは『ロレンゾの友達』」

三者の友情観から解釈し、なりたい自分を再考する授業



ロレンゾが罪を犯したのか分からない状況で表出する三者の友情観。それを基に相手の状況が分からない時、その状況をどう解釈するのかを話し合います。そして卒業後、自分たちが置かれる状況で何を大事にしたいかを聞き合い、なりたい自分を再考する授業を提案します。（山平 恵太）

国語科 第3学年

「ちいちゃんのかげおくり」

「もし、あの時」を想像することで物語を読み深める



本教材を読むとき、「もし戦争がなかったら」と想像せずにはられません。

本実践では「もし、あの時」と物語を想像し、「でも、実際は」と叙述に立ち返ることで、場面の様子や登場人物の心情を捉えながら、自分なりの考えをもつ子どもの姿を目指します。（木下 忠志）

算数科 第1学年

「数のまとまりを見つけよう」

操作しながら数を分解し、数の感覚を豊かにする授業



乗法・除法の素地として、式や図を用いて、ある数から同じ数のまとまりを見つけることが必要だと考えます。

そこで班の人数で分けられない数に対し、その数がどんな数なら等分できるかを具体的操作と式・図を結び付けながら考える授業を提案します。（内田 武瑠）

体育科 第6学年

「つなぐ・ねらう スペースバレー」

連携してスペースに落とすためには、どう動く?



ボールを落とす、落とさないをたのしむネット型。しかし、アタッカーだけがスペースを狙ってもうまくいきません。

そこで、ボールの繋ぎ方を工夫し、空間を生み出すことを試行錯誤する中で、連携のよさに気づき、自分の動きに目を向けていく姿を提案します。（西 沙織）

特別活動 第3学年

「見つけよう!元気がでるごはん」

食生活を見直し、自分にできる食の選択とは



栄養バランスの学習では、食べ物3つの働きなどの基礎的な知識に重点が置かれがちです。そこで自らの食生活を見直すことで、自分にできる適切な食の選択をし（学んだ知識を基に）お家の人をお願いするなど、意思決定をしていく学びを目指します。（福永 真紀子 上月 直美）

学びをたのしむ、それを支える

香川大学教育学部 准教授 岡田 涼 先生



4年前に初めて附属小学校の授業を見させていただいたとき、子どもたちの様子に驚いたことをよく覚えています。学習課題に熱心に取り組み、粘り強く友だちと一緒に考えながら、振り返りの場面ではしっかりと自分の言葉で語る姿がありました。それでいて、子どもたちは眉間にしわを寄せるのではなく、学ぶたのしさに溢れていました。毎年少しずつ授業の様子を参観させていただくなかで、おぼろげながらにその秘密が分かってきました。丁寧に子どもの状態を見取り、教材の本質を考え抜き、子どもがじっくりと学びに向かうことができる環境を設定する。これまでの日本の学校教育で積み重ねられてきたよさを踏まえつつ、これから子どもたちに必要とされる学びの場を保障している先生方の技と努力があります。それは言葉では語り尽くせないものです。研究発表会で、学びをたのしみ自律共創する子どもの姿、そしてそれを支える先生方の姿をぜひご覧ください。きっと、明日につながる学びの方向性が見えるものと思います。



算数科 第5学年

「つまようじタワーを設計しよう!」

式で表すことのよさを実感する学び



数量の関係を□や△などで表す式のよさを子どもは感じているでしょうか。

立体図形を基に子どもが新たな問題を設定し、具体物操作や表などから式を導き出します。その式を考察し、問題解決に生かすことで、式で表すよさを実感する学びを提案します。（津川 郷兵）

生活科 第1学年

「ねんちょうさんとなかよし大きくせん!～もうすぐ2ねんせい～」

小学校入学がたのしみになるよう、自分たちにできること



自分中心に考えがちな発達段階の子どもたちですが、年長児と関わる中で相手の立場に立つ大切さを感じているところです。年長児の興味・関心、得意・不得意等を踏まえ、相手に寄り添いながら小学校入学がたのしみになるようにできることを考えていきます。（芦原 玲子）

外国語活動 第3学年

「附小クイズで学校のことをもっと知ろう!」

表現や伝え方をブラッシュアップしていく授業



3年生の外国語活動最後のユニットとして設定されている「Who are you?」の単元。今まで学習してきた英語表現に加え、伝えたいものの特徴を表す表現を子どもたちと一緒に考え、やり取りをしながら相手に一層伝わる表現が生まれる授業を提案します。（福永 真紀子）

国語科 第2学年

「お手紙」

〈なる〉活動で『ふたりの四日間』を“そうぞう”する



「ああ。とてもいいお手紙だ。」

その後の4日間、かえるくん、がまくんは何を思い、どんなことを語り合ったのでしょうか。本実践では、〈なる〉活動を通して物語の空所を想像し、『ふたりの四日間』を創造する授業を提案します。（溝上 剛道）

理 科 第6学年

「見いだそう!私たちと環境のこれから」

身の周りから問いを見だし、環境を自分事として考えるには



最終単元でありながら、調べ学習と発表会に終始しがちな本単元。生活の中から環境についての問いを見いだすとともに、4年間の理科学習で働かせた見方・考え方を使って、自分自身と環境のこれからを考え、関わり方を見いだしていく授業を提案します。（柿原 智明）

音楽科 第2学年

「和音をつなげて応援しよう!われら鍵盤ハーモニカ応援団」

低学年こそ、和音を扱う音楽の学習を!



感じたことや表現したいことを素直に表出できる発達段階だからこそ、曲想の根幹となる和音の響きにたっぷり触れさせたいと考えています。本題材では、応援したい相手にぴったりのチアホーンフレーズを、鍵盤ハーモニカを用いてつくります。（上原 正士）

保健・健康教育 第6学年

「健康を守るための 私の選択」

自分が健康であり続けるためにできることは



健康を保つために、学校や地域の保健活動を活用していくことに目を向け始めた子どもたち。未来の自分を思い描き、健康と関わり続けることの価値を見出して、年齢や状況に合わせて必要な情報や健康行動を自分で選択していく子どもの姿をご覧ください。（村上 朋美 西 沙織）